

バリ取り、仕上げ 自動化など提案

浜松で技術展

機械部品などの仕上げ加工に関わる県内外27の企業や大学研究室が出展した「仕上げ加工技術展」が10、11の両日、浜松市中央区の



27の企業・大学が省力化につながる仕上げ加工技術や機械材などを紹介した展示会。11日午前、浜松市中央区の市総合産業展示館

ロボ導入事例のセミナーや専門家の個別相談も行う。いずれも事前予約が必要。問い合わせは同商議所商工観光課へ電053(452)1114へ。

市総合産業展示館で開かれた。加工精度や省力化の課題解決を目指す製造業関係者に、部品の発生する「バリ」を除去する工具・工法や研磨、洗浄、ロボットシステムなど幅広い技術を発信した。

アルミ部品製造の江間工業（浜松市中央区）は、部品の美観にも寄与する光沢バレル研磨の技術を紹介。ギケン（福井県）は穴開け時にバリを抑制するドリルを提案した。静岡大や静岡理工科大の研究室も初出し、表面処理を担う職人技術の数値化やバリ取りの電解加工をテーマに研究を展示した。

主催した一般社団法人バリ取り・表面仕上げ・洗浄協会の北嶋弘一理事長は「今回の企業や技術との出会いを困り事の解決につなげてほしい」と述べた。人材育成や技能伝承を目的に同協会が今年創設した「バリ取り・マイスター」認定制度の第1回講義・試験も同会場で行われた。